

平成23年度 白老地域事業実施状況

(1) 空間形成事業

① 植栽事業

平成18年度から19年度にかけて植栽した陣屋地区及びポロト地区、並びにポロト自然休養林地区の樹木等の維持管理を行った。

各地区において、保育観察・定期巡視を実施し、生育状況を把握するとともに、除草・草刈、鹿対策ネット、案内プレートの補修・木道防腐作業等を行った。

陣屋地区においては、除草作業を実施したもののガマ、フトイ等は生育が遅く、減少傾向にあることから、今年度の収穫はなかったため、現在、原因等追究のため、専門家による植生環境調査を実施している。



草刈作業（休養林地区）



除草作業（陣屋地区）

② 栽培事業

アイヌの人々が伝統的文化的活動を行う際に必要となる自然素材を確保するため、森野地区での穀物等の試験栽培を引き続き実施するとともに、ヨコスト地区では海浜植物の試験栽培を行い、採取及び採捕の空間確保に取り組んだ。

また、穀物（アワ・ヒエ・キビ）や苗木、有用植物・海浜植物の保育、定期巡視等を行い生育状況を記録するとともに、収穫物については伝承者育成事業、体験交流事業の利用に供するほか、穀物の一部を他地域での事業に活用する予定である。



キビの間引き作業



間引きが必要な樹木（森野地区）



生育したアワ（森野地区）



生育したヒエ（森野地区）



シロヨモギ（ヨコスト）



採種後のハマボウフ（ヨコスト）

③空間整備（コタンの再生）

ポロト湖畔地区において、アイヌの人々の歴史や自然観に根ざした工芸技術等の伝承活動の場や自然と共生していたアイヌの人々の知恵を学習するため、イオル空間としてのコタンの再生等を引き続き行った。さらに今年度はチブ（丸木舟）、イタオマチブ（板綴り舟）の製作を実施した。

また、22年度までに復元したチセの薫煙作業と周辺の草刈作業、森野地区で生育した有用樹木の移植作業も実施した。



森野地区から移植した樹木（ポロト地区）



丸木舟の製作（アイヌ民族博物館）

(2) 空間活用事業

① 体験交流事業

一般社団法人白老モシリが中心となって、地域内の各種事業と連携を図りながら、体験交流指導者育成事業の受講者等をリーダーとしたイオル空間を活用した各種体験交流事業を実施した。

海のイオル体験2回、川のイオル体験3回、山のイオル体験2回、海のイオル食文化体験9回、ミニ体験学習6回の計22回の体験交流事業を実施し、延べ650名の参加があった。

また、アイヌ文化の体験・体感交流事業では、教育現場でのアイヌ文化の理解・普及促進を図るため、教職員を対象に、研究者や学芸員による講義・体験事業などを3日間12講座にわたり実施し、アイヌ文化の理解・普及促進を図った。



サケの稚魚放流



社台小学校での講話



自然散策



カリブ製作体験



クチャ製作体験



アハ豆採取体験（竹浦中学校）

(3) 空間の管理運営

① しらおいイオル事務所「チキサニ」運営事業

教育（学習）型イオル事業運営の拠点として、アイヌの人々が主体的に空間の管理運営を行うとともに、アイヌの人々や広く一般に対して、アイヌ民族や文化に関する学習機会や情報を提供する場として活用している。

また、復元したチセの適正な維持管理を実施するとともに、アイヌ民族や文化に関する学習機会や情報を提供する場として活用し、23年度は2,000人弱の利用者があり、年々利用者が増加している。

② 管理運営事業

白老地域のイオル再生事業全体について、総合的に管理運営し、地域の実施計画のとりまとめや関係機関との連絡調整を実施。

アイヌ施策推進室職員のほか、学芸員1名を配置し、各種事業の指導、協力など白老地域におけるイオル再生事業について総合的な調整を行っている。